

# 京大人文研

共同研究班が読み解く

## 世界史

### 第1次大戦から100年

12

山室 信一

法政連鎖思想史



やまむろ・しんいち 1951年  
熊本生まれ。京都大学文学部研究  
所教授。著書に「憲法9条の思想水  
脈(司馬遼太郎賞受賞)」「複合戦争  
と総力戦の断層」など。

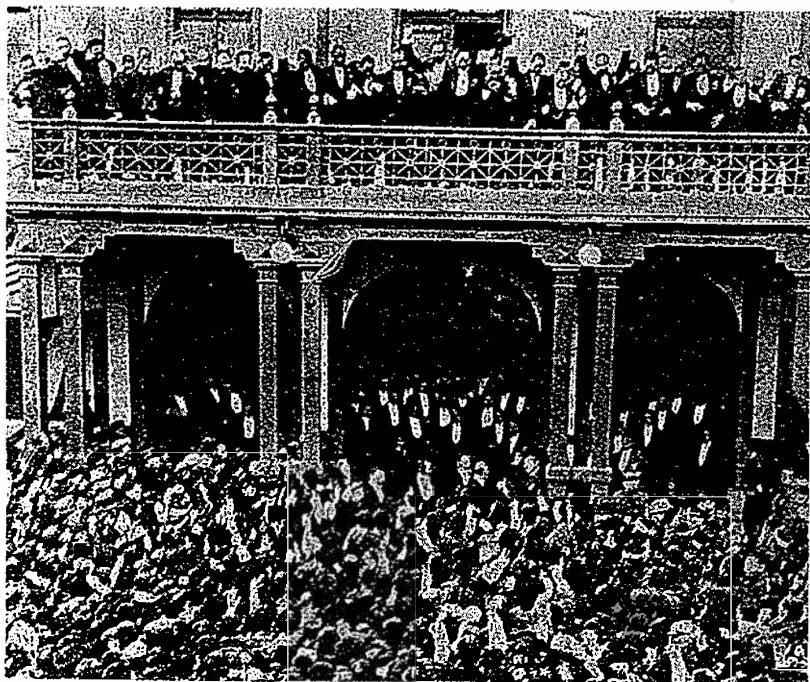
- 1913 大正政変。第1次護憲運動により第3次桂太郎内閣倒れる
- 1914 第1次世界大戦勃発
- 1917 アメリカ参戦、ロシア革命による社会主義政権成立
- 1919 ドイツ、イギリス、カナダで女性参政権の承認
- 1925 日本で普通選挙法・治安維持法成立

## 民主主義

掲げていたが、ウィルソン米大統領は「世界は民主主義のために安んじられなければならない」と宣言して参戦を正当化したのである。ここに国内政治のルールと定めた民主主義は国際社会の安定要因とみなされ、第一次大戦はドイツなどの「専制主義」と英米などの「民主主義」との戦いとして宣伝されることになった。

以後、アメリカは今日に至るまで世界各地で「民主主義を守るための戦争」を繰り広げてきた。だが、それによって生まれ続けているのは、暴力と恐怖の連鎖であり、膨大な死者と難民である。軍事力で強要された民主主義に真の生命力はない。

「戦争の最初の犠牲者は、真実である」という言葉は、第一次大戦とともに世界に普及した。日本のジャーナリスト徳富蘇峰も「生命と真実の大安売り」が第一次大戦の特質であった、と皮肉をこめて指摘していた。そして、真実を犠牲にした報道によって敵対感情を煽り、戦意高揚が図られたことにより戦争は4年3カ月も続き、参戦国は世界に広がった。それを可能にした要因の一つは、グローバルに結ばれたメディア網であった。



普通選挙の即刻実行を求めて大会を開いた後、衆議院前(当時)でバルコニーにいる議員に向けて法制化を求める学生たち(1919年)。「目で見る議会政治百年史」より

他方、アメリカ参戦から半年後にロシアで世界最初の社会主義革命が成功しソビエト政権が成立すると、民主主義は唯一のものではなくなった。すなわち、英米などが主張する資本主義に基づく民主主義とソ連などが追求する社会主義に基づく民主主義という「二つの民主主義」が競合していくこととなった。この「二つの民主主義」の対立は、「ファシズムと民主主義の戦争」と連合国側が呼んだ第二次大戦を経て世界的な冷戦時代をつみ、1991年のソ連崩壊まで続いたのである。

こうした世界情勢の下で、総力を挙げて世界情勢のために動員された国

## 宣伝戦加速、対立が拡大

民は自らが政治決定に参加することを要求し、男性の普通選挙だけでなく女性参政権も各国で実現に向かったことで、大衆民主主義マ・ス・デモクラシーと呼ばれる政治状況が出現した。ドイツで指導者原理による国民統合体制としてのナチズムを生み出したのも大衆民主主義に他ならなかった。

日本でも吉野作造らに主導された大正デモクラシーの高まりの中で男性普通選挙制が1925年に成立したものの、次なる戦争を押しとどめることはできなかった。女性参政権が認められたのも第二次大戦後の1945年になってからであった。それから70年を経て選挙権年齢は18歳以上に改められたが、各種選挙での投票率は低下傾向にあり、昨年末の衆議院選挙では過去最低の52%を記録した。

もちろん、民主主義は投票日だけに存在するのではない。だからこそ、民主主義は唯一の正解がない永続的な追求課題として、その活性化が日々要求され続けていくのである。

|| おわり

# 正解のない永続的 pursuit 課題

1、國の小百合 撫子 垣根の千

風の美意識であり、勅撰集の伝統

ネバーランドのそれなのでした。

な歌詞をのせたもので、原詩の恋



今、いかなる境位に

それでは民主主義は、現在いかなる境位にあるのだろうか？ それに対しては、「全てだ。それ以外にないのだから」とも、逆に「無

だ。あらゆる局面で形骸化しているから」とも答えることができる。だが、民主主義は時代や場所や解決すべき問題に応じて異なるをえない。

「Tell me what democracy looks like! (民主主義ってなんだ) This is

what democracy looks like! (これが民主主義だ)」。この安普法制に反対するデモで発せられる自問自答は、誰もが自由に集い、自らの声を発する民主主義の精神を表明すると共に、「民の声」がいかに戦争を回避できるかという問いかけでもある。



主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、日本経済新聞社、京都新聞  
特別協力：浄土真宗本願寺派、本山、本願寺  
後援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、  
(公社)京都府観光連盟、(公社)京都市観光協会、  
テレビ大阪、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

入館料：一般 1,200円(1,000円)  
高校・大学生 800円(600円)  
小・中学生 400円(300円)

※1は前売り20名以上の団体料金  
小学生未満、身体障がい者手帳などの交付を受けている方  
およびその介護者1名は無料  
前売りは10月9日(金)まで  
京都新聞は北山センター(ロケーション)で発行(〒604-8501)